

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成26年1月16日(2014.1.16)

【公開番号】特開2012-9411(P2012-9411A)

【公開日】平成24年1月12日(2012.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2012-002

【出願番号】特願2011-37975(P2011-37975)

【国際特許分類】

H 01 R 4/38 (2006.01)

H 01 R 11/12 (2006.01)

H 01 R 43/16 (2006.01)

【F I】

H 01 R 4/38 B

H 01 R 11/12 E

H 01 R 43/16

【手続補正書】

【提出日】平成25年11月25日(2013.11.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

参考文献1(志摩政幸・地引達弘、“トライボロジー概論”、東京海洋大学海洋学部海洋電子機械工学科、講義テキスト、p.28、URL：[http://www2.Kaiyodai.ac.jp/~jibiki/ou\\_riki/text/tribology\\_text.pdf](http://www2.Kaiyodai.ac.jp/~jibiki/ou_riki/text/tribology_text.pdf))には、軟鋼平面における真実接触面積が示されており、見掛け接触面積が $2000\text{mm}^2$ の場合に、荷重が500kgfのときは真実接触面積が $5\text{mm}^2$ 、100kgfのときは真実接触面積が $1\text{mm}^2$ 、20kgfのときは真実接触面積が $0.2\text{mm}^2$ 、5kgfのときは真実接触面積が $0.05\text{mm}^2$ 、2kgfのときは真実接触面積が $0.02\text{mm}^2$ であることが開示されている。大きな荷重で2つの平らな金属を押さえつけられれば、真実接触面積が増加することが分かる。つまり、現在の主流の1つであるネジ締めは、大きな荷重を加えることで接触面積を大きくし、接触抵抗を小さくしていると考えられる。